

国際ロータリー／ロータリー財団

2017-18年度 年次報告



Rotary  世界を変える行動人

Rotary.org

国際ロータリーのビジョン

私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

会長と管理委員長からの メッセージ



© ROTARY INTERNATIONAL/写真 ALYCE HENSON

2017年6月、国際ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、ロータリーの新しいビジョン声明を承認しました。この新しい声明は次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」。この声明は、私たちの存在と使命、つまり、現在の私たちを位置づけ、私たちが目指す組織を反映するものです。

一人の人間が達成しうることは、その個人の能力とリソースに限られています。しかし、多くの人びとが共通の目標に向かって協力し合うとき、集められた大きな力を使ってより大きな目標を掲げることができます。私たちは手を取り合って、難民を支援し、災害後に被災地の人びとを助けてきました。そして、あともう一步でポリオのない世界を実現しようとしています。2017年のポリオ症例数は、歴史上、最少数を記録しました。世界的な活動を指揮する私たちは、ポリオ撲滅にかつてないほど近づいています。

私たちは、持続可能な変化をもたらすために努力しています。これを支えてくれる最強の味方がロータリー財団で

す。2017-18年度には、多様で持続可能な奉仕プロジェクトを世界各地で行うために、3億6000万ドルを財団のために集めるという大胆な目標を立てました。会員やその他のサポーターの寛大なご寄付によって、私たちはこの目標を達成するばかりか、それを上回る金額を集めることができたのです。また、2025年までに20億2500万ドルを集めるという恒久基金の目標達成にも大きく近づくことができました。

ロータリーは、誰かが解決方法を教えてくれるのを待っていません。自分たちで行動し、解決策を見つけます。世界中のロータリアンが日々年々、それぞれの地域社会と国で、世界で、そして自分自身の中で「変化をもたらす」ために行動しているのです。

国際ロータリー
2017-18年度会長
イアン H.S. ライズリー

ロータリー財団
2017-18年度管理委員長
ポール A. ネットセル

ロータリーとは



© ROTARY INTERNATIONAL/写真 ALYCE HENSON

ロータリーの会員は、人と人をつなぎ、問題を解決し、持続可能な変化を生みながら、次世代の世界をよりよい場所にすることを目指して共に行動します。

人と人をつなぐ 出身地が全大陸にわたり、さまざまな文化的背景を持つ私たちは、ロータリークラブを通じて手を取り合い、アイデアを交換し、友情を築き、職業でのネットワークづくりをしながら、地元と世界で変化をもたらしています。

多角的に考える 多様で多岐の専門分野をもつ会員によって、多角的に課題に向き合うことができます。会員は、それぞれのリーダーシップと専門知識を生かして社会問題に取り組み、独自の解決策を見出しています。

ニーズを見極め、解決する 110年以上にわたり、平和の促進、非識字と貧困の緩和、安全な水と衛生設備の提供、母子の健康、地元経済の成長、疾病との闘いのために取り組んでいます。

地域社会を変える 情熱と責任感のあるロータリー会員は、持続可能な影響をもたらすクラブのプロジェクトに力を注いでいます。持続可能な真の解決策が見つかるまで、私たちは地域社会の根強い問題に粘り強く取り組みます。

自分自身を変える ロータリーでは、会員が新しい考え方や専門知識に触れ、視野を広げることができます。クラブの例会、プロジェクト、募金活動やネットワークイベントを通じて、私たちは、よりよい人間、地域社会のリーダー、国際人、そして人道活動家となるために、自らのスキルを磨いています。

35,678

世界中のロータリークラブの数

11,198

ローターアクトクラブの数

(ローターアクター数：推定257,554人)

22,952

インターアクトクラブの数

(インターアクター数：推定527,896人)

1,195,107

世界中の
ロータリアンの数

北米と
カリブ海諸島
343,544

RIBI
44,930

ヨーロッパ、
アフリカ、中東
296,101

アジア
382,883

中南米
92,036

オーストラリア、
ニュージーランド、
太平洋諸島
35,613

ロータリアンがボランティアに
費やした時間

1億1110

万時間

ロータリアンが財団に
寄付／募金した額

4億1470

万ドル

これまでに授与された
ロータリー平和フェロウシップ

94

件

授与されたグローバル補助金

1,306

口
(総額8670万ドル)



疾病予防と治療

483

(3570万ドル)



水と衛生

283

(1880万ドル)



経済と地域社会の発展

182

(1050万ドル)



基本的教育と識字率向上

174

(1100万ドル)



母子の健康

102

(720万ドル)



平和と紛争予防／紛争解決

82

(350万ドル)

世界を変える行動人

新しいビジョン声明

ロータリー理事会とロータリー財団管理委員会は、多くのロータリー会員の意見を基に形づくられた新しいビジョン声明を承認しました。未来の方向を定めるこの声明は、次のように謳っています。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

このビジョンを実現させるために、私たちは今後5年間の活動指標となる、以下の4つの優先事項を設定しました。

- より大きなインパクトをもたらす
- 参加者の基盤を広げる
- 参加者の積極的なかわりを促す
- 適応力を高める

ビジョン声明、優先事項、ロータリーの戦略計画については、My ROTARY (my.rotary.org/ja) をご覧ください。

新しい命を植える

国際ロータリーのイアン H.S. ライズリー会長は、7月1日から4月22日の「アースデー」までの期間に植樹をするよう全



© ROTARY INTERNATIONAL/写真 ALYCE HENSON

ロータリアンに呼びかけました。これに応え、世界各地のクラブが、1年を通して何百万本もの木を植えました。

あと少し

ナイジェリアでは、野生型ウイルスによるポリオの新しい症例が2年近く報告されていません。ナイジェリアがポリオフリーとなるまでまた一步前進しました。2017年にアフガニスタンとパキスタンで報告された症例はわずか22件で、これは歴史上、最も少ない数字です。

平和への貢献を称えて

2018年2月から6月にかけて開かれた6回の会長主催平和会議では、平和とその他5つの重点分野とのかかわりのほか、環境面での持続可能性について話し合われました。

11月に行われた国連でのロータリーデーでは、平和と紛争解決への献身を称えられ、ロータリー会員とロータリー平和センター学友を含む6人が表彰されました。



© ROTARY INTERNATIONAL/写真 MONIKA LOZINSKA



ビル&メリンダ・ゲイツ財団本部で開かれた2017年「世界ポリオデー」ライブストリーミング・イベントで、ポリオ撲滅活動について話し合うパネリストたち

© ROTARY INTERNATIONAL/写真 ALYCE HENSON

世界ポリオデー

10月24日の「世界ポリオデー」に寄せて、102カ国の3,670以上のロータリークラブがイベントを実施しました。米国ワシントン州シアトルのビル&メリンダ・ゲイツ財団本部からライブ配信されたイベントは、15万人近い視聴者を集めました。

ローターアクト50周年

18～30歳の行動人が奉仕の精神と友情を培い、楽しみながら共に活動するローターアクトが、3月13日に50周年を迎えました。



Rotary.orgが受賞

Rotary.orgが、Top Non-profitsより非営利団体ウェブサイトのベスト20に選ばれました。さらに、International Academy of Digital Arts and Sciences (国際デジタルアート&科学アカデミー) 主催の「ウェブ賞」団体ウェブサイト部門でウェブ・ピープルズ・ボイス賞を受賞しました。



未来への投資

奉仕の2世紀目を迎えたロータリー財団は4億1470万ドルの募金に成功しました。2017-18年度、地区補助金503件、グローバル補助金1,306件、ポリオ補助金63件、平和フェロー申請94件が承認され、2億7700万ドルがプログラム補助金として活用されました。

故サム F. オオリ氏を偲んで

2018-19年度国際ロータリー会長に選出されたサム F. オオリ氏が、2017年7月13日に76歳で逝去されました。オオリ氏は、アフリカ出身のロータリアンでは二人目、ウガンダ人としては初の会長となる予定でした。



オオリ氏は1978年にロータリーに入会。地区ガバナーを務めた1988年当時、オオリ氏の尽力により、同国のクラブ数は9クラブから89クラブにまで成長しました。オオリ氏は、優しい心遣いと思いやり、謙虚さと思慮深さで知られていました。

アフリカ地域ポリオプラス委員会とインターナショナル・ポリオプラス委員会の委員としても献身してきたオオリ氏。ロータリーのポリオ撲滅活動に尽力した氏を称え、「Sam F. Owori Memorial to Polio」基金が設立されました。

インスピレーションを生み出そう

ローターアクターの活躍に拍手

初のローターアクトクラブが米国ノースカロライナ州に誕生して50年。今日、11,000以上にもおよぶローターアクトクラブで、18~30歳の若いリーダーたちが、交流し、共に行動して、よりよい地域社会づくりに励んでいます。約25万人のローターアクターが今日のロータリーを形づくりながら、未来に向けた礎を築いています。



© ROTARY INTERNATIONAL/写真 ALYCE HENSON

インターアクター、奉仕に大奮闘

5月、エジプト、アレクサンドリアのインターアクトクラブが、空腹の人びとのために1日500食以上の食事を用意しました。また8月には、貧しい家庭に250キログラム相当の肉を分配しました。

さらに、冬の訪れを前に、冬支度のできない町外れの住民を助けようとインターアクターたちが毛布を配りました。住民の家の多くに屋根がないことを知ったインターアクターは、地元の業者に頼んで屋根を作ってもらいました。

アレクサンドリア・インターアクトクラブは、地域社会への奉仕を称えられて、2017年インターアクト・ビデオコンテストで準優勝を果たしました。

人生を変える冒険

シーマ・タマンさんは、ネパール、カトマンズ初のロータリー青少年交換学生として、アメリカ、ワシントン州ベルビューに留学しました。留学中にシーマさんは、雪そりやコンサート、アメリカの祝日を楽しむなど、アメリカの十代の若者の生活を体験。中でも、学校が週休2日であることがうれしかったそうです。ネパールでは、学校の休みは土曜日だけです。

はじめは不安だったというシーマさん。母国から遠く離れているだけではなく、実はシーマさんは目が見えないのです。しかし、青少年交換を通じて新しい環境にも慣れ、英語力もアップしました。人と出会ったり、人前で話したりすることにも慣れました。留学を通じて、人間として成長し、独立立ちをし、新しい世界を体験できたとシーマさんは言います。



シーマ・タマンさん(中央、ピンクのジャケット)。国旗を広げるロータリー青少年交換学生の仲間とともに

© 写真 SEEMA TAMANG



新しい家族を得る

ウガンダのナキバレ・ローターアクトクラブは、難民居住地や難民キャンプを拠点とする初のローターアクトクラブです。2016年、アメリカ難民委員会（ARC）は、ナキバレの若者向けに、生活を改善するためのビジネス計画やイノベーションについて競う企画を立てました。この企画の入選者の授賞式には、当時のロータリー会長エレクト、サム F. オオリ氏を含む60人以上のロータリアンが出席しました。オオリ氏が、13人の入選者に新しいローターアクトクラブの創設を提案すると、ウガンダのキワトゥール・ロータリークラブと米国ミネソタ州ローズビル・ロータリークラブの支援を受けて、この13人がナキバレ・ローターアクトクラブを設立したのです。

クラブの初めての奉仕プロジェクトは、ナキバレに着いたばかりの難民を助けるプロジェクトでした。一日におよそ30組の家族が居住地にやってきますが、

シラミやゴキブリがいるテントで寝泊まりをしている状況でした。そこでローターアクターたちは、わずかなお金を出し合い、またARCの支援も得て殺虫剤と噴霧器を購入し、テントの周辺を消毒しました。

その後もローターアクターたちは、お年寄りや孤児、色素欠乏症のために文化的不名誉を着せられた人びとの元を訪れたりしました。また、少女を対象とした縄跳び大会に共同出資したり、さまざまな国からやってきた難民同士の交流促進を目的としたサッカー大会を開催したりしました。

メンバーの多くが、親類を紛争で亡くしたり、家族を祖国に置き去りにせざるを得なかった人たちです。メンバーは、ローターアクトで築いたつながりを通じて、悲しみを乗り越え、新しい家族としての絆を深めています。

ロータリーと共に

ポリオをなくそう



ポリオ撲滅には安全な水も大事

パキスタン、カラチのオランギタウンは、人口250万人以上が住む、世界で5番目に大きなスラム街です。ほとんどの人はほったて小屋に住んでおり、安全な水を使えることはほとんどありません。しばしば汚水が流れる水道は、A型肝炎や下痢、腸チフスやポリオの原因となる病原菌に汚染されている可能性があります。

子どもへのポリオ予防接種が懸命に行われる一方、オランギタウンでは、病気の蔓延を防ぐために安全な飲み水も必要とされています。これに応え、地元のロータリークラブは、太陽光で動く浄水施設の設置に必要な資金の半分相



© 写真 WHO PAKISTAN

当を集めました。また、パキスタン・ポリオプラス委員会からの資金提供も受け、パキスタン・コココーラ社および国連開発計画と協力して55,000人に安全な水を届けました。

オランギタウンの浄水施設は、パキスタンで15番目に設置された施設です。安全な水を届け、子どもたちへのポリオ予防接種を続ければ、オランギタウンの人たちが健康的な未来を手に入れるチャンスも広がります。

すべての子どもにワクチンを

ヘルスワーカーが予防接種キャンペーンの戸別訪問中に子どもを見逃してしまっても、予防接種のチャンスはほかにもあります。地元の集会やその他の社交行事では、子どもたちだけでなく多くの人に出会う機会があるからです。

ナイジェリアでは、生まれたばかりの赤ちゃんの多くは、生後1週間後に行われる命名式で予防接種を受けます。この命名式では、5歳未満であればどの子どもでもポリオ予防接種を受けられます。アフガニスタンでは、クリケット競技会などのスポーツイベントでヘルスワーカーたちがポリオの予防接種を行っています。

規模こそさまざまですが、多種多様な地元行事で人びとの健康状態が改善され、ポリオのない世界の実現を後押ししています。

ロータリーと共に

変えていこう

明かりの力

場所は、米国のニューメキシコ、ユタ、アリゾナの3州にまたがる僻地。ここに暮らすナバホ族のおよそ16,000世帯は電力が使えませんでした。このため、ここに暮らす人びとは、増える家計の出費に苦しみ、健康問題を抱え、収入を得る機会を得られずにいました。

そんな中、2012年、コロラド州のデュランゴ・デイブレイク・ロータリークラブが、この僻地の家庭にソーラーライトを設置する活動を開始。これは、住民に多くの可能性をもたらすものとなりました。

クラブは、お年寄りや障がい者のほか、支援を必要とする住民に200以上のソーラーライトを届けました。明かりが灯せるようになったナバホ族の人びとは、商売用のジュ

エリーを作ったり、暗く長い冬にパズルやトランプをして過ごせるようになりました。子どもたちは宿題ができるようになりました。恩恵はそれだけではありません。呼吸器系疾患の原因となる灯油を使わなくなったため、住民たちの健康も改善されたのです。

今でもデュランゴ・デイブレイク・クラブ会員は、支援活動のためにナバホ族の居住地を年に数回訪れます。クラブは、ナバホ・ネイションと協力して、ソーラーユニットの増設とナバホ族の若者をソーラー技術者として養成するための助成金を募っています。

このプロジェクトは、地区補助金を使って実施されました。地区補助金は、地元や海外の重要なニーズにクラブと地区が取り組むための補助金です。

変えていこう

紛争の傷を癒す

ウクライナ東部では、親ロシア派武装勢力とウクライナ政府軍との対立により、何千人もの人が命を落とし、何百万人もの方が家をなくしています。紛争の影響を受けた人の中でも特に、親や兄弟を亡くした子どもたちは、心に深い傷を負っています。

ウクライナでの武力衝突は2014年初頭に始まりました。このとき支援に立ち上がったのが、ポーランドのロータリー会員です。彼らは、ロータリーのポーランド・ウクライナ国際共同委員会と協力して、子どもたちのための2週間のキャンプを始めました。キャンプで子どもたちは、精神保健専門医からカウンセリングを受けながら、ゲームや遠足、さまざまな野外活動をします。キャンプは、子どもたちが紛争のトラウマから立ち直り、心の平和を取り戻す場所となったのです。

暴力を経験した子どもたちは、自らも暴力の道を進む傾向があります。このキャンプは、子どもたちを異なる未来へと導くものです。

これまでの4年間に100人以上の子どもがキャンプに参加。はじめは眠れなかったり悪夢にうなされていたりした子どももいました。中には、心を閉ざして引きこもっていた子どももいましたが、2週間で徐々に気持ちがほぐれ、感情をコントロールしたり、同じ経験を持つほかの子どもと心を通わせるようになりました。一番大切なことは、これらの子どもが「子どもらしさ」を取り戻せたことでしょう。

国際共同委員会は、複数国のロータリークラブが参加するネットワークで、主に平和推進に関連する奉仕プロジェクトに取り組んでいます。ウクライナでのキャンプは、ポーランド、ウクライナ、スウェーデン、スロバキアのロータリークラブから支援を受けています。





人工サンゴ礁が海と漁村を救う

ラモン湾の静かな青い海。その底に、地元漁師の誇りとロータリーへの感謝を示すかのように、ロータリー歯車形の巨大な人工サンゴ礁が見えます。

1990年代から2000年代にかけて、この辺りでは大きな商業漁船によって、ダイナマイト、シアン化物、メッシュ網を使った漁が横行し、地元漁業が壊滅的な被害を受けていました。これを救ったのが、ロータリーの人工サンゴ礁です。

沿岸の村々にとって漁業は欠かせない産業であり、長年、村の漁師たちは家族を養うこの海を守るために闘ってきました。2005年、漁師たちはアチナモン・ロータリークラブ（フィリピン、ケソン州）に助けを求めました。そこで同クラブは、人工サンゴ礁をつくることを決めたのです。

同クラブは、米国カリフォルニア州のマデラ・ロータリークラブと手を組み、ロータリー財団の補助金を利用して予算100万ドル以上のプロジェクトを開始。鉄筋コンクリートで作られたこの人工サンゴ礁はロータリーの歯車の形をしています。沿岸から600メートルのところであり、高さ4メートル、直径21メートルで、重さは数トンあります。

今日、サンゴに包まれるこの歯車にはたくさんの種類の魚が集まってきます。漁師によると、漁獲量は以前の2倍近くにもなったそうです。

サンゴ礁のおかげで観光客が増え、村の経済もうるおいました。漁師たちは竹製のいかだをつくり、ダイビングや魚の餌付けを楽しむ観光客に貸し出しています。

このプロジェクトは、マッチング・グラントを使って2008年に実施されました。現在、旧マッチング・グラントはグローバル補助金となり、ロータリーの6つの重点分野を支援しています。詳細は、rotary.org/ja/our-programs/grants。

この記事は、フィリピンのロータリー雑誌に掲載された記事を元にしてしています。



© DEWEY C. SERGIO

ロータリーと共に

“ちから”をつなごう



平和フェローから 国際的な人権擁護者へ

インド、ムンバイのロータリー平和フェロー、エルザマリー・ジルバさんは、レッドドット財団の設立者兼CEOです。ジルバさんは、性的嫌がらせや暴力を女性たちが告発できる場をつくりたいと思い、同財団を設立しました。

レッドドット財団は、セーフシティと呼ばれるネット上のクラウドマッピングのデータを使い、女性が頻繁に男性から異様な視線を向けられたり、声をかけられるなどして脅かされた場所を割り出しました。また、女性のためのアートワークショップを開き、そこで女性たちは、不適切な行為について地域の人びとに理解してもらうために近所の壁に「目ではなく、心で見て」と訴える絵を描きました。その後、男性たちの見つめる行為はなくなりました。

ハラスメントの問題が消えたわけではありませんが、この問題についての会話が增え、女性たちは自分の権利についてもっと認識するようになりました。

平和構築にあたる 平和フェロー

コロンビア、ボゴタ出身のルーカス・ペーニャさんは、ロータリー平和フェローとして、英国のブラッドフォード大学から、紛争、安全保障、開発学の修士号を取得しました。現在、ロータリアンとなったペーニャさんは、世界自然保護基金で働いています。世界で有数の自然保護団体が平和とどんな関係があるのか、と思われるでしょうが、実は大きな関係があるのです。

ペーニャさんは、土地管理の専門家です。コロンビアでは、人口の1パーセントに満たない一部の人びとが、国内の良好な土地の半分以上を所有しています。平和構築者として学んだ知識と経験を活かしてペーニャさんは、社会的立場が弱く、自然公園内に違法に住まなくてはならない人びとに土地を提供する政策に取り組んでいます。この政策によって、人びとは生産性豊かな土地と、その生産性をさらに上げる手段を手に入れることができるでしょう。

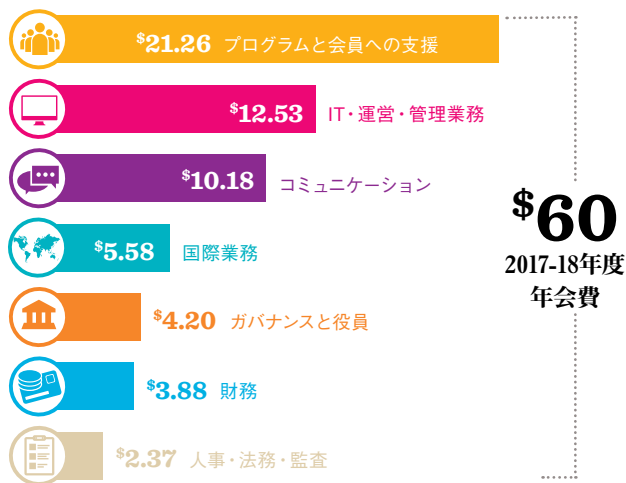
ロータリー平和センター

ロータリー財団は、以下の大学と提携して、平和と紛争予防／紛争解決の分野の修士号または修了証取得のためのフェローシッププログラムを提供しています。

- チュラロンコーン大学、修了証取得プログラム (タイ、バンコク)
- デューク大学とノースカロライナ大学チャペルヒル校(米国)
- 国際基督教大学 (日本、東京)
- ブラッドフォード大学 (英国、ブラッドフォード)
- クイーンズランド大学 (オーストラリア、ブリスベン)
- ウプサラ大学 (スウェーデン、ウプサラ)

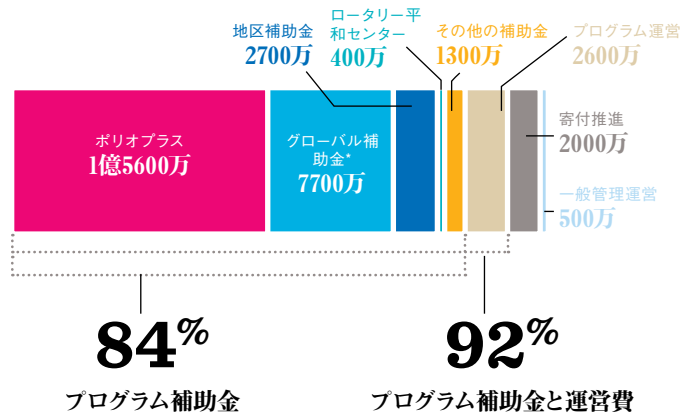
2017-18年度の 財務

会費はどのように使われるか



ロータリー財団の支出

(単位:ドル)



*返金その他調整後

国際ロータリー

収支報告

2017年会計年度と2018年会計年度 (6月期、単位1000米ドル)

収入	会計年度累計	
	2017年実績	2018年実績
会費	\$ 68,784	\$ 73,330
投資純益	9,527	3,368
支援業務その他の活動	28,529	27,803
収入合計	\$ 106,840	\$ 104,501
支出		
運営費	\$ 74,117	\$ 79,497
支援業務その他の活動	20,819	19,471
一般剰余金	1,577	1,196
支出合計	\$ 96,513	\$ 100,164
為替差損	\$ (75)	\$ (1,080)
純資産の増加	\$ 10,252	\$ 3,257
純資産(期首)	\$ 126,587	\$ 136,839
純資産(期末)	\$ 136,839	\$ 140,096

ロータリー財団

収支報告

2017年会計年度と2018年会計年度 (6月期、単位1000米ドル)

収入	会計年度累計	
	2017年実績	2018年実績
寄付	\$ 304,375	\$ 341,135*
投資純益	98,052	56,256
補助金その他の活動(純額)	(2,529)	1,751
収入合計	\$ 399,898	\$ 399,142
支出		
プログラム補助金	\$ 221,204	\$ 277,225
プログラム運営費	23,206	25,462
寄付推進	19,888	20,350
一般管理運営	4,753	5,435
支出合計	\$ 269,051	\$ 328,472
為替差損	\$ (495)	\$ (1,608)
誓約未収入金のための予備費	\$ (1,810)	\$ (440)
純資産の増加	\$ 128,542	\$ 68,622
純資産(期首)	\$ 930,134	\$ 1,058,676
純資産(期末)	\$ 1,058,676	\$ 1,127,298

*予測収入5950万ドルおよびポリオプラス基金振替の額1410万ドルは含まれていません。

**上記は未監査の数字です。監査済みデータはrotary.org/ja/annualreportをご覧ください。

アーチ・クラフ・ソサエティ

2017-18年度の新入会者／以前にリストに掲載されていなかった方々 (敬称略)

財団サークル

(寄付額1,000,000～2,499,999ドル)

匿名 (1)

Diana V. Gladden, United States
Elio and May Marsalla, United States
Robert and Edit Murray, United States

管理委員長サークル

(寄付額500,000～999,999ドル)

匿名 (1)

James E. Goodman, United States
Jan and Bevan Warland-Browne, Australia

管理委員会サークル

(寄付額250,000～499,999ドル)

匿名 (6)

Mukesh and Shashi Aggarwal, India
Ramesh C. and Manju Agrawal, India
Dr. Ranu and Ashish Ajmera, India
Raushan Ara Akhtar, Bangladesh
Dr. Chilukuri Sarat and Annapurna Babu, India
Dr. A.S.M. Badruddoza and Farhana Ferdous,
Bangladesh
Jamie and Patty Baisden, United States
Bill J. and Deb Baker, Canada
Young-Suk Ban and Ae-Kyeong Kim, Korea
Michael D. and Arlene G. Bardin, United States
Virginia A. and Donald Bester, United States
Claudia H. Cannady, United States
Molly Syamali Chatterjee, MD, United States
Chau-Ho (Alarm) Chen, Taiwan
Sugar Bill Furn-Jernn and Joanna Chin-Ying
Chen, Taiwan
Yusen (Ethan) Chen and Hong-Ling (Sandy) Lai,
Taiwan
Kee Taek Cheon, Korea
Jeng-Huei Chou and Lien-Chih Chou Chen,
Taiwan
Roson Chou and Linda Tsai, Taiwan
John A. and Melva A. Conlon, United States
Richard M. and Martha E. Curl, United States
Lawrence A. and Lois K. Dimmitt, United States
Errol P. EerNisse and Sonja E. Chesley, United
States
P. Ganesan and G. Nellucharam, India
Jitender Kumar Gaur and Usha Gaur, India

Barton Goldenberg and Marina Garzolini-
Goldenberg, United States
Sivarraj and Manonmani Gowder, India
Dr. Ashok and Vijaya Gupta, India
Dr. Krishnendu and Simran Gupta, India
Madhu and Raj Kumar Gupta, India
Neena Handa, Kenya
Mark Hartmann and Shelby Rhodes, United
States
Michael S. and Gity S. Hebel, United States
Jenn-Pan Horng and Jen-Jen Lai, Taiwan
細井保雄・文江 (日本)
Rolf N. and Gaye D. Hufnagel, United States
Makiko Iskandar, Indonesia
Noel W. Jackson and Debra R. Jackson, United
States
Ulfaat Jahan and Moazzem Hossain, Bangladesh
Shyh-Guang Jaw and Su-Ru Lin, Taiwan
Chil Seok Joo and Nae-Hee Lee, Korea
Suraiya Kassamally, England
Roger and Lorri Kaufman, United States
Bo-Gon Kim and Sang Rye Cha, Korea
Chung Seok Kim and Eun Young No, Korea
Ho Taek Kim and Hyun Mi Yang, Korea
Hyung and Hyesook (Sue) Kim, United States
Jin-Chul Kim, Korea
Hsiu-Chen Ko, Taiwan
米谷龍三・みどり (日本)
Eva Kurniaty, Indonesia
Young-Hoon Kwon and Eun-Kyung Kim, Korea
Ian E. Lancaster and Jane E. Wheeler, Canada
Roger J. Lang and Janet E. Hoopmann,
Australia
Hye-Young Lee and Gwan-Ho Yoon, Korea
Soon Dong Lee and Hee Kyung Cho, Korea
You Eok Lee, Korea
Robert and Louise Lemon, Australia
Magdalen R. and Thomas C. Leung, Canada
Dr. Waewdao and Sliin Limlengert, Thailand
Szu-Chen Liu and Shu-Fang Wu, Taiwan
Frank V. Livingston, United States
Ronald H. and Neva Lynde, United States
Mark and Rosemary Makulinski, United States
丸尾研一・正子 (日本)
Girdharilal Modi and Sarla Girdharilal Modi,
India
Shunmugam Muthu Palaniappan and Kamala
Muthupalaniappan, India

Bala D. and Vasi Naidoo, Canada
成川守彦・恵美 (日本)
Jong-Yoon Pak and Ji-Min Jeon, Korea
James Charles Park and Georgene L.
Hildebrand, United States
Maullin Manubhai Patel and Sonal Maullin
Patel, India
Margot Picard, South Africa
Kevin J. Pitt, England
Shabbir F. Rangwala and Nafisa Shabbir
Rangwala, India
R. Fedor Rubatto S. and Maria Cristina Urioste,
Peru
Ian Lee and Margaret Ann Salmon, Australia
Stuart G. and Vivien M. Searle, New Zealand
Preston Seu and Donna Shaver, United States
Jae Kyu Shim and Cho Mee Ra, Korea
Frank and Shirley Sibert, United States
Byung-Gab Son and Tae Me Son, Korea
Howard and Nancy Spainhour, United States
Jabbar and Salma Sudhi, India
DJ and Ellen Sun, United States
N. Sundaravadevelu and S.V. Murugambal, India
Susanne J. Sundberg, United States
Hsiao-Ping Szu, Taiwan
田島敏久・富美子 (日本)
Rafael Ng and Le Be Yu Tantuco, Philippines
John and Marcia Traversaro, United States
Cheng-Te (Former) and Shu-Wen Tsai, Taiwan
若林紀男・俊子 (日本)
William and Lucy Anne Walker, United States
Emil Eduard and Elizabeth Weber, Australia
B.J. and Rosalie Westbrook, United States
Kwang-Il Woo and Jung Kun Shin, Korea
Dong-Sun Yang and Seong Nam An, Korea
Jeong-Boon Yang and Jeong-Taek Oh, Korea
八幡恵介・右子 (日本)
In-Gil Yu and Ok-Sun Lee, Korea

ロータリーと共に

平和な世界を築こう

長年、ロータリー財団は「世界でよいこと」を行ってきました。
奉仕の第二世紀を迎えた今、寄付者の方々が財団を支援する理由を語ってくださいました。

「寄付するのは、国際ロータリーを信じているからです。1985年、ロータリーは“ポリオのない世界”を約束しました。ロータリーがこの約束を固く守り続けているのは素晴らしいと思います。33年経った今も、私たちはこの取り組みを支援し続けています」



ジョン・ユン・パクさん、ジ・ミン・ジェオンさんご夫妻（韓国）
アーチ・クランフ・ソサエティ（管理委員会サークル）

「明日の世界がもっと良くなることを願って寄付をします」



謝 炎盛（シエ・イエン・シェン）さん、
カテリーヌさんご夫妻（台湾）
アーチ・クランフ・ソサエティ
（管理委員長サークル）

「マジアベ元RI会長の“世界平和達成の阻害要因は貧困にあり、識字率の向上が解決策の一つである”という言葉に共感しました。教育支援が貧困の連鎖を断ち、平和の種になることを望んでいます」



若林 紀男さん、俊子さんご夫妻（日本）
アーチ・クランフ・ソサエティ（管理委員会サークル）

「人びとが幸せになれば、私たちも幸せです。だから寄付するのです」



ボク・ジンさん、エイブリー・
テオさんご夫妻（シンガポール）
アーチ・クランフ・ソサエティ（管理委員会サークル）





ロータリーのパートナー

ポリオ撲滅活動

国際ロータリーは、以下の組織とともに、世界ポリオ撲滅推進活動 (GPEI) で中心的役割を担っています。

- 世界保健機関 (WHO)
- UNICEF (国連児童基金)
- 米国疾病対策センター
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団

プロジェクトパートナー

- 「シェルターボックス」は、災害救援活動におけるロータリーのパートナーです。

リソースパートナー

- カナダグローバル連携省
- RDSプロジェクト社 (RDS Projects Ltd)
- カルル・バイシャ銀行



Global Affairs Canada / Affaires mondiales Canada

カナダグローバル連携省は、ロータリーが22カ国で健康、識字率向上、教育を改善するために実施するプロジェクトに240万加ドル以上を投入することを約束しました。

奨学金プログラムパートナー

- IHEデルフト水教育研究所

奉仕パートナー

以下の団体は、クラブの活動を支援し、各地域でのロータリープロジェクトで協力しています。

- アショカ
- 国際失明予防協会
- ドリー・パートン
- 「イマジネーション・ライブラリ」
- 米国平和部隊 (Peace Corps)
- グローバル・フードバンク
- YSA (青少年活動を推進する米国団体)
- グ・ネットワーク

- ハビタット・フォー・ヒューマニティー

クラブと地区は、60カ国以上で米国平和部隊のボランティアと協力して、国際理解を助長しながら、地域社会に持続的な変化をもたらすプロジェクトを実施しています。

戦略パートナー

- 国際ロータリーと米国国際開発庁 (USAID) のパートナーシップ
- 経済平和研究所

国連

国際ロータリーは、世界の15の首都で、国連機関や国際組織と活動する代表者を任命しています。

2000年以来、シェルターボックスとロータリーは、90カ国以上の国々で災害救援活動を支援してきました。

クラブと地区は、ハビタット・フォー・ヒューマニティーと提携して、70カ国で住宅環境や経済状況を改善し、安全な飲み水を供給しています。

**国際ロータリー
2017-18年度
理事会**

会長

イアン H.S. ライズリー (オーストラリア)

会長エレクト

バリー・ラシン (バハマ)

副会長

ディーン・ローズ (カナダ)

財務長

ミカエル・アルベリ (スウェーデン)

理事

ジェラルド・アロノー (フランス)

ホルヘ・アウフランク (グアテマラ)

バスカー・チョカリンガム (インド)

コーネリユ・ディンカ (ルーマニア)

ジェームズ・ロナルド・フェリル (米国)

ピーター・イブラー (ドイツ)

石黒慶一 (日本)

ロバート C. ニュプファー・ジュニア (米国)

ジョン C. マシューズ (米国)

文銀洙 (韓国)

斎藤直美 (日本)

ブライアン A.E. ストイエル (英国)

ノエル J. トレヴァスキス (オーストラリア)

グレゴリー F. ヤンク (米国)

パウロ・オグスト・ザナージ (ブラジル)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

**ロータリー財団
2017-18年度
管理委員会**

管理委員長

ポール A. ネットェル (米国)

管理委員長エレクト

ロン D. パートン (米国)

副委員長

ケネス M. シュパート・ジュニア (米国)

管理委員

オルシリク・バルカン (トルコ)

ウィリアム B. ボイド (ニュージーランド)

マリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ (ブラジル)

ブレンダ・マリー・クリッシー (米国)

メアリー・ベス・グローニー・セリーン (米国)

スシル・グプタ (インド)

ゲイリー C.K. ホァン (黄其光) (台湾)

北清治 (日本)

ジュリア・フェルプス (米国)

K.R. ラビンドラン (スリランカ)

マイケル F. ウェブ (英国)

尹商求 (韓国)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)



表紙

難民キャンプで煉瓦をつくるナキバレ・ローターアクトクラブ(ウガンダ) 会員、ジャン・ルワボシさんとマルティン・ルボンドさん。難民コミュニティのために奉仕プロジェクトを行うこのクラブの会員は、活動資金のほとんどを自己資金で賄っています。クラブはまた、新たな住人を温かく迎え入れ、衣類や生活必需品を提供しているほか、最も支援を必要とする住民を訪問したり、音楽のレッスンやスポーツ行事を開いたりしています。

© ROTARY INTERNATIONAL/写真 EMMANUEL MUSERUKA



ROTARY INTERNATIONAL®
THE ROTARY FOUNDATION

Rotary.org

